

『グリーンインフラ』※実証施設において雨水貯留・流出抑制効果と環境保全効果を確認

～ 設置から1年、計測データによる実証とホタルが生息可能な環境を実現 ～

東急建設株式会社（本社：東京都渋谷区、社長：寺田光宏）は、2018年3月に技術研究所（神奈川県相模原市）内に設置したグリーンインフラ（※）実証施設において約1年間のデータ計測を行い、自然環境が有する多様な機能と、雨水を活用したビオトープ（水辺の生息空間）でのホタルの生息を確認しました。

※ グリーンインフラ：

自然環境が有する多様な機能（雨水浸透・貯留による防災・減災、植物の蒸発散機能を通じた気温上昇の抑制、生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成等）を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進める取組み。国内では、国土交通省の国土形成計画（2015年8月）や社会資本整備重点計画（2015年9月）等にグリーンインフラの内容が盛り込まれてきました。また2018年12月に「グリーンインフラ懇談会」が開催され、2019年7月4日には「グリーンインフラ推進戦略」が公表されています。

本施設では、雨水の貯留量と施設で消費する水収支や生物生息空間としての基礎実験データ等を収集し、グリーンインフラ施設としての効果を検証しています。

実証の目的の一つである「都市型集中豪雨対策」では、集中豪雨時にグリーンインフラ施設が雨水を浸透促進させるとともに、雨水を貯留して流出抑制する効果を確認しました。

また、もうひとつの目的「環境保全技術開発」では、貯留した雨水を有効活用した水辺の生息空間（ビオトープ）を創出し、雨水を自然に還す雨水の浸透促進と暑熱緩和対策としての有効性を確認しました。四季を通じて様々な昆虫類や鳥類等が生息・育成できる場になっており、周辺の緑地との中継地としてエコロジカルネットワークの形成等、生物多様性の保全にも役立っています。

また、本ビオトープに2019年3月から5月にかけてヘイケボタルの幼虫を約80匹放流した結果、2019年6月から成虫を確認。約1か月間ヘイケボタルの飛翔を確認し、ホタル生息環境の創出にも成功しました（写真参照）。水質、温度、照度、風速など育成環境の計測・調査により、ヘイケボタル生育のノウハウを蓄積しています。



【グリーンインフラ実証施設のヘイケボタル】

グリーンインフラ施設は、地域住民との協働や民間企業との連携により多様な主体が維持管理活動に関与できることから、グリーンインフラを起点とした新たなコミュニティが形成されることが期待されています。

当社では、収集したデータをもとに、さらなる活用が期待されているグリーンインフラの要素技術の高度化と段階的な改良を進め、今後、都市部におけるグリーンインフラ施設の設置提案や（仮）上郷開発計画などの環境保全への活用を進めていく予定です。

当社の理念である「安心して快適な生活環境づくりを通じて一人ひとりの夢を実現する」企業として、今後も環境配慮経営を推進してまいります。

【グリーンインフラ実証施設の概要】

技術研究所の敷地内約 120m² (9.5m×12.5m) に雨水貯留槽、雨水貯留水循環型ビオトープ（ホタルの育成）、雨水浸透促進設備等により構成されています。この施設では、雨水を「貯める」、「使う」、「自然に還す」、生き物が「棲む」、「育つ」をキーワードに

① 都市型集中豪雨対策（流出抑制、浸透促進）

② 環境保全の技術（雨水の有効利用、水循環の促進、動植物の生息・生育環境の創出）

を検証しています。



【グリーンインフラ実証施設】

（参考資料：出典「国土交通省」）

<http://www.mlit.go.jp/common/001100233.pdf>

<http://www.mlit.go.jp/common/001179745.pdf>

【本件に関する問合せ先】

経営戦略本部 経営企画部 コーポレート・コミュニケーショングループ 西田

TEL 03-5466-5008 FAX 03-5466-5069 E-mail:webmaster@tokyu-cnst.co.jp

以 上